

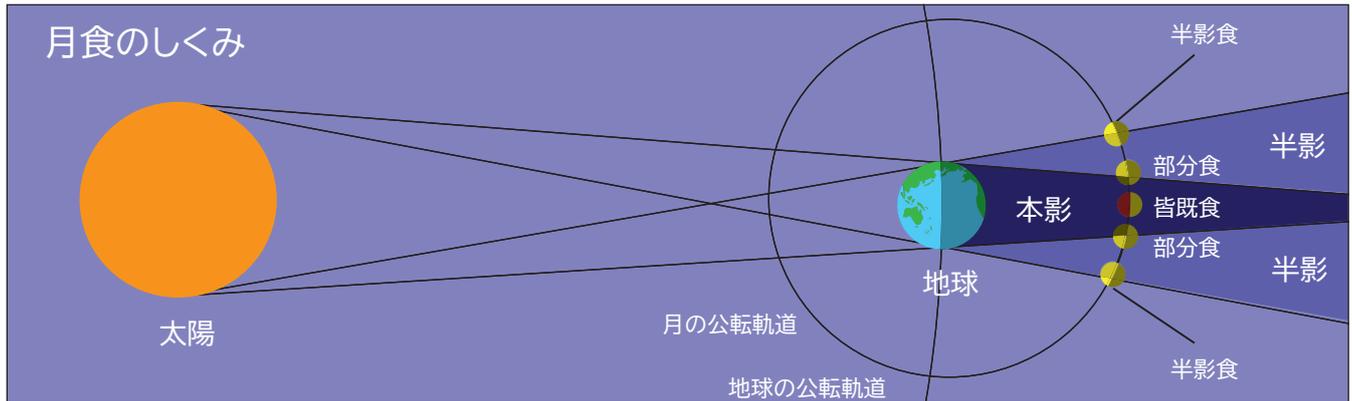
2021年5月26日 皆既月食をみよう！

日本で3年ぶりとなる「皆既月食」が日本全国で見られます。皆既月食では、満月が欠けていき、赤黒い色に変わります。特別な道具がなくても、月が見えるところであればどこでも月食を楽しめます。

★ 月食とは？

「月食」は、満月がゆっくりと欠けていく天文現象です。満月の夜、太陽-地球-月が一直線に並ぶときにだけ起こります。地球の影の中を月が通り、月が欠けたように見えます。地球の濃い影（本影）に月の一部だけが入るのが「部分月食」で、地球の濃い影に月が全て入るのが「皆既月食」です。

2021年5月26日（水）、日本全国で皆既月食が見られます。



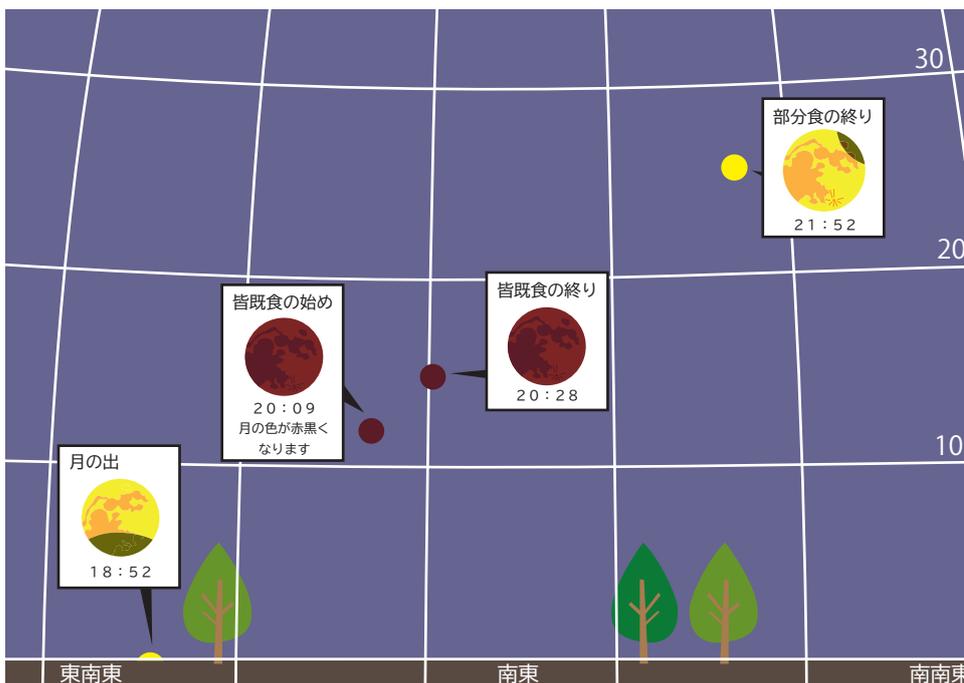
★ どんな風にみえる？

18時45分ごろから、月がゆっくりと欠けていく「部分食」がはじまります。この時刻、西日本では月はまだ昇ってきていないため、18すでに少し欠けた月が昇ってくることになります。南東の空がひらけたところで探してみましょ。20時過ぎに、月が地球の影に完全に入り「皆既食」となります。皆既食中の月は「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色に見えます。皆既食は約20分間続き、22時前に もとどおりの満月に戻ります。

★ 京都府での見え方 ★

(北緯 35.02 度、東経 135.75 度)

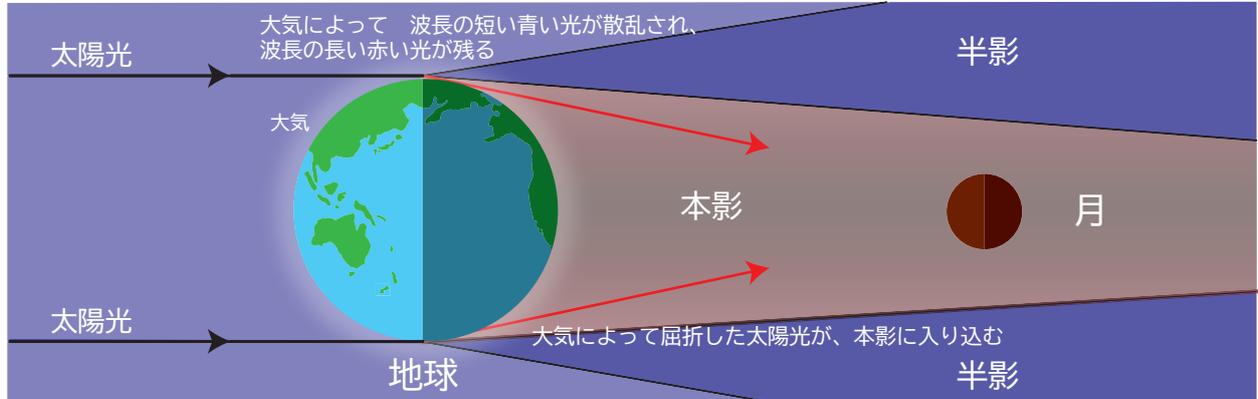
	時刻	月の高度
部分食の始め	18:44.6	地平線の下
月の出	18:52.7	-0.2度
東の空がひらけたところで観察しましょう。		
皆既食の始め	20:09.4	12.0度
食の最大	20:18.7	13.4度
皆既食の終り	20:28.0	14.8度
部分食の終り	21:52.8	25.7度



★ 皆既月食はどんな色？

月が地球の濃い影（本影）に完全に入り込むと「皆既月食」が起こります。皆既中の月は真っ暗になって見えなくなるわけではなく、「赤銅色」と呼ばれる赤黒い色に見えます。

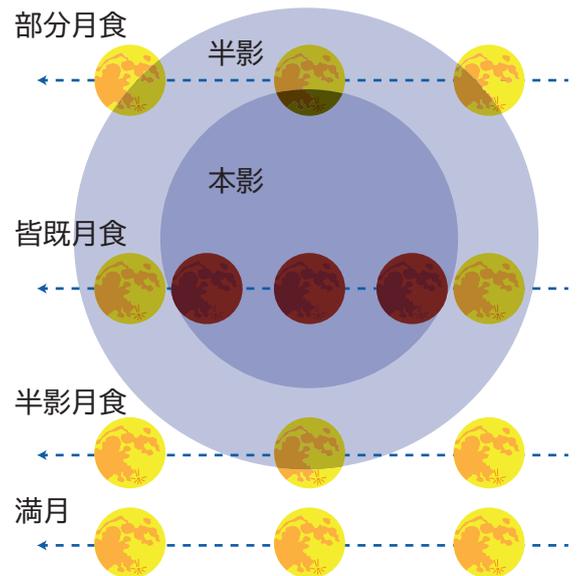
地球の大気では、赤よりも青い光のほうが散乱してしまいます。つまり、太陽光が大気を通る時、青よりも赤い光のほうが、たくさん大気を通りぬけることができます。残った赤色の光が月に届き、反射した光が地球に届くことによって、月が赤黒く見えます。



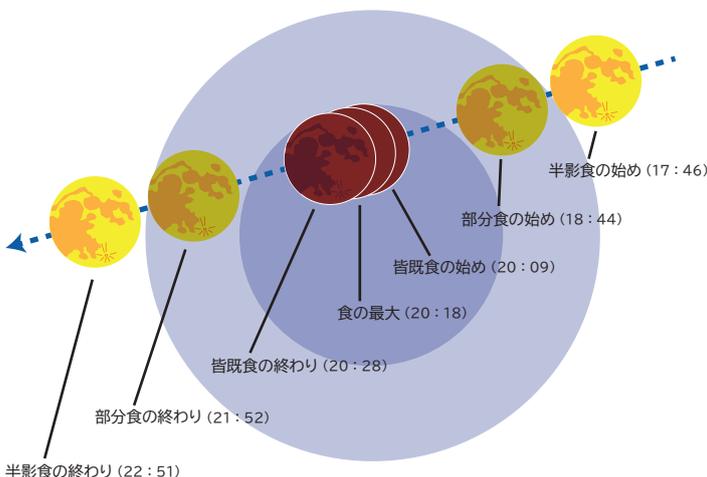
★ 満月のたびに月食が起こらないのはどうして？

月食は満月の夜におきますが、満月の夜が必ず月食となるわけではありません。地球が太陽の周りをまわる軌道（道筋）の面と、月が地球の周りをまわる軌道面は、およそ5度ずれているためです。このずれのために、いつもは地球の影が北か南にずれて、月食が起こりません。月食は、太陽 - 地球 - 月が一直線に並んだ時にのみ起こります。

皆既月食…月の全部が地球の濃い影（本影）に入る
 部分月食…月の一部が地球の濃い影に入る
 半影月食…月の一部または全部が地球の薄い影（半影）に入る



★ 皆既月食を観察しよう！



特別な道具はいりませんが、望遠鏡や双眼鏡があると、月食をもっと楽しめます。

2014年10月8日の皆既月食などは、月は本影の真ん中近くを通り、皆既食の時間が1時間以上ありました。しかし、今回の月食では、月は本影の端ぎりぎりのところを通ります。そのために、皆既食となっている時間がわずか19分間です。皆既食中の赤銅色の月は暗く見つけにくいので、部分食から観察するのがおすすめです。次回は、2021年11月19日に食分0.97も欠ける部分月食が起こります。